



(18)

## ボランティアのあるべき姿を探る 「どんぐりの会」



△駿河荘でひもを使っての人形づくり

どんぐりの会は、地域の一人暮らしのお年寄りと触れ合いを持ちましょうと、どんぐりの背比べの仲間が集まり発足した会で、7年目を迎えます。

毎月2回「ふれあい計画」に基づいて活動しています。5月は、新しくできた鷹岡市民プラザでの昼食会、皆さんに喜ばれながら楽しく過ごしました。また今年から「誕生日触れ合い訪問」を始め、手づくりのプレゼントを渡しながら交通安全を呼びかけます。7月はぞうきんとお弁当づくり。以後リサイクル手芸教室、敬老会、地区文化祭への参加、お年寄りへの年賀状づくりなど、たくさんの行事を予定しています。さらに、地域の外へも目を向けようと、駿河荘での手芸教室も始めました。

どんぐりの会は、一人暮らしの皆さんに、家庭的な温かさを味わってもらっている、ボランティアのあるべき姿を探っているグループです。

問い合わせ 根上昌代 ☎21-6238

こちら編集室

むせんふじこのパートII  
あたし、今悩んでるの。  
あたしの大声で、赤ちゃんが起きちゃったり、  
もっと寝てたいのにって  
寝だらね。あたしの声  
つてさ。どうしよう！  
投書もあるの。いや応な  
いいわねえ。ただ、しや  
べつればいいんだもの。

新橋町の、鈴木光彦さんと昌子さんが結婚したのは、昭和十八年。光彦さんが二十五歳、昌子さんが二十歳の時でした。おひつは、二人の結婚祝いにと、光彦さんのお母さんが贈ってくれた物です。

「当時、私たちの借りていた一戸建ての家賃が二十円。このおひつも、二十円はしたんだろうと思いますよ」

おひつはサワラの木でつくれられ、通称“あか”と呼ばれる銅でたがをはめてあります。御飯は、一升五合入ります。

「このおひつが、御飯でいっぱいになつたなんてことは、まあ、なかつたです

本当に食べる物がなくて飢餓状態でした。サツマイモは高級品で、ふすま、トウモロコシのしん、大豆の搾りかす、もう何でも食べました。朝、サツマイモの入った御飯を一人で食べて、お父さんのお弁当に詰めたら、私のお昼御飯はありませんでした。そんな時代でしたねえ」

ちょっと年老いて、たがも緩んできました。おひつは、ふるい屋さんで修繕されました。もう、息子さんの代ですけれど、大勢の、手のぬくもりが伝わってきます。

## おひつのおくもり



炊きたての、あつあつ御飯をおひつに移して、ふきんをかけて——。食べるとき、ほのかに漂う木の香り。この香りを楽しんだのは、何歳くらいまでの人なのでしょうか。

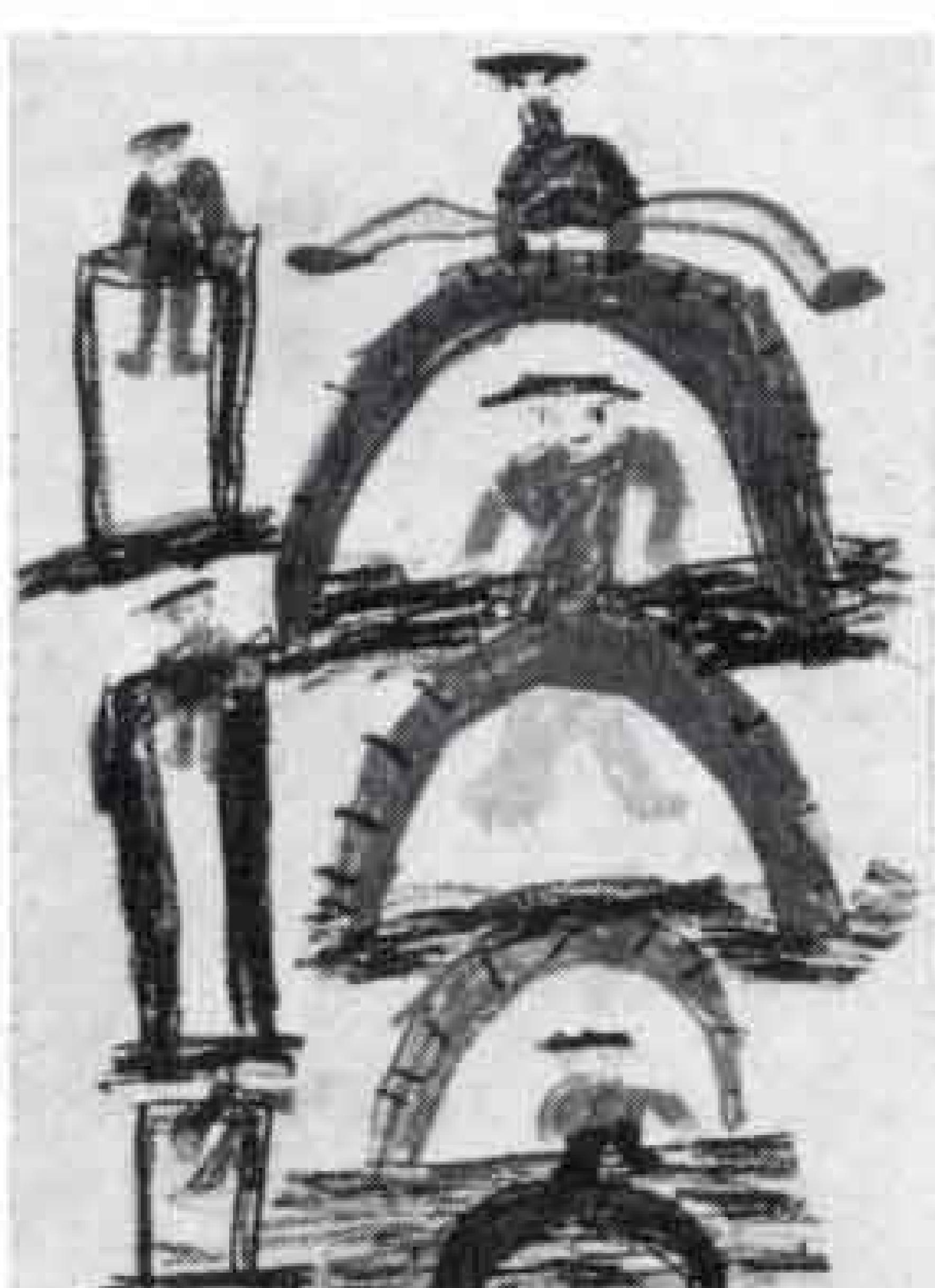
木のおひつもしゃもじも、随分少なくなってしまいました。今回は、寄贈していただいたおひつのお話です。



鈴木光彦さんと昌子さんと“おひつ”

岩松小学校一年生のお友達に人気があるのは、うんといつタイヤ越し。楽しそうに遊んでいる絵をかいてくれました。

## ぼくの作品 わたしの作品



ぼくが、やすみじかんにてつぼうであそんでいたとき、ともだちがタイヤとびをしていたよ。がつこうのおおきなタイヤも、みんなびょんととべるんだ。



さくらいうすけ



ジヤンボうんていを、おおぜいでやつて、とてもたのしかつたよ。でも、さとみは、てがすべてとちゅうでおりちやつたよ。はやくぜんぶできるようになりたいな。



しじょうさとみ